

IFCO2013 大阪世界大会

公益財団法人 全国里親会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-1-7-857

助成事業の概要

（事業の目的）

社会的養護の質を高めるという世界共通の課題について、日本が国際社会の一員として世界と向き合い、共に学び合う初めての機会です。研究者や専門家などが発表する国際学会形式とは異なり、里親などの養育者や施設の職員、行政関係者などが情報を交換し、社会的養護の実践や制度について話し合い、実践に生かすことを目的として行われるものです。

また、従来、こうした研究集会や研修会などは、当事者の悩みや意見などに耳を傾けるということに対して、十分な配慮がされていないこともありましたが、ユース（15歳から29歳）プログラムを自分たちで作成し、運営することによって、当事者が抱える問題の解決を図ることも目的の一つです。

更に、大会に参加した里親や施設職員、行政関係者、ソーシャルワーカーなど様々な専門職が、目指すべく社会的養護のあり方を具体的にイメージして持ち帰り、実践に役立てることを目的としております。

（時期・内容）

- ①日時 平成25年9月13日（金）13時～19時 開会式・基調講演・分科会
9月14日（土）9時～19時 シンポジウム・分科会
9月15日（日）9時～21時 シンポジウム・分科会・懇親会（ディナー）

9月16日（月）9時～15時 シンポジウム・閉会式

②会場 大阪国際交流センター（大阪市天王寺区上本町8-2-6）

③参加者 全国里親会の里親、里子、児童養護施設・乳児院職員、児童相談所等行政関係者、民生児童委員、里親研究者、学生、その他（里親制度の関心のある者）

④参加人数 延べ約3,000人

事業の成果

世界大会には、里親などの養育者、親族里親、里親の実子、行政や施設の職員、研究者や学生など様々な立場や専門家が参加し、ワークショップ形式の分科会が行われ、それぞれの立場から社会的養護に関する意見や現状報告、将来像などについて国や立場を超えて話し合いが行われました。

その成果は、全体を通じて社会的養護に関するそれぞれの立場から重要性を学び、目指すべき社会的養護のあり方を具体的にイメージして持ち帰り、実践に生かすことができるようになります。

このことは、他の分野において国際交流によって刺激し合い発展して行くように、日本の社会的養護の分野においても同様の効果が期待できます。

成果の広報、公表

大会の様子は報告書やDVDを各里親会、都道府県・政令指定都市、養護施設、児童相談所、乳

児院等に配布しました。

また、東日本（横浜市）、西日本（大阪市）において、大会に参加できなかった里親等のため、大会報告会を実施しました。

各地で開催される里親研修会や里親サロンでの教材として活用する予定です。

海外における社会的養護の現状や考え方については、各地における社会的養護の将来像を検討する上での参考資料となります。

■ 今後の展開

世界各国の里親やソーシャルワーカーなどの社会的養護の関係者が集まり、現状について情報を交換することにより、社会的養護のあり方を学び、家庭養護の推進を図ることができます。

初めての社会的養護の横断的な大会の結果として、家庭養護を中心とした質の高い社会的養護を実現するために、参加者それぞれが異なる立場であっても、協力と連携を深めていくこととなり、参加した里親や施設職員、行政や関係機関それぞれが、目指すべき社会的養護のあり方を具体的なイメージとして実践に活かすことができます。

他の分野における国際交流により刺激を受け発展するのと同様に、日本の社会的養護においてもその効果が期待できます。